

新基本構想・基本計画策定「市民会議」第12回リーダー会議兼第8回起草委員会議事録

日時：平成23年11月13日（日）9時00分～12時35分

場所：大横保健福祉センター 3階会議室

参加者：岡崎、篠原、加藤、岡田、中瀬、新倉、土肥、野牧、八木、関谷

欠席者：野崎、倉田

傍聴者：0名

事務局：小島、伊藤、内田、設樂、和智、中山、羽生

富士通総研：大森

配付資料： 第12回リーダー会議兼第8回起草委員会次第

資料1 総論 10月30日までの決定内容反映版

資料2 各論各分科会の冒頭2頁及び施策提言シート一覧（11月11日時点）

資料3 表紙・目次・中扉・奥付案

資料4 「中間のまとめ」に寄せられた市民意見に対する検討結果一覧
（分科会意見反映版）

資料5 市民会議委員名簿（11月11日時点）

資料6 あとがき（11月11日時点）

参考資料1 総論文案に対する委員の参考意見資料

参考資料2 施策提言シート「市民による「市民会議素案の具体的提案」事業化の検証と外部評価の拡充」検討案

1. 開会・資料確認

- ・ 事務局から、資料の確認があった。

2. 第11回リーダー会議兼第7回起草委員会決定事項等の確認

- ・ 事務局から、第11回リーダー会議兼第7回起草委員会の決定事項等を報告し確認した。

（起草委員会）

3. 【総論】原稿の確定

資料1に基づき、下記項目ごとに、分科会において出された意見も踏まえて検討し、内容を確定した。

< 1. まちづくりの基本理念 >

- ・ 分科会において、「響き合い」という言葉がどのような経緯で決まったのかという質問があった。起草委員会で議論されたように「共生し」の方が良いのではないかといった意見も出たが、起草委員会での決定経過を説明し納得いただいたとの報告があった。
- ・ 事務局から、「古くから交通の要衝として」の前に、「また、」などの接続詞を入れた方が、文章の流れが良くなるのではないかと提案があり、議論の結果「また、」を入れることに決定した。
- ・ 以上の結果、「まちづくりの基本理念」については、以下のとおり確定した。

まちづくりの基本理念

「人とひと、人と自然が響き合い、みんなで幸せを紡ぐまち八王子」

私たちのまち八王子は、高尾・陣馬の山並みや、清らかな湧水を集めて流れる浅川の清流、美しい夕焼けの風景など、やさしさとうるおいのある自然にいだかれた故郷です。また、古くから交通の要衝として多彩な人々が交流し、賑わいの中で先人たちの知恵が響き合って形成されたまちです。

自然と歴史に恵まれたこのまちの魅力を次世代へ引き継ぎ、持続可能な社会を創造するとともに、人々が支え合いながら信頼の絆で結びつき、生きる喜びと幸せを感じられる八王子を実現していきたいとの思いから、この基本理念を定めました。

< 2 . 私たちが目指すまち >

- ・ 各分科会から、以下の報告があった。
 - イメージ図の生活・共助分科会の分野に、「子育て」を追加した。
 - イメージ図の中心に基本理念を入れた方が、基本理念を実現するため目指すまちであることが明確となり、良いのではないかとの意見があった。
 - イメージ図が「みんなで担う公共と協働のまち」にぶら下がって残りの「私たちが目指すまち」がある印象を受けるため、左右に分けて配置・掲載してはどうかとの意見があった。
- ・ 議論の結果、資料1を基本とし、「私たちが目指すまち」については、左右に分けて3つずつ配置・掲載することを決定した。
- ・ 事務局から、イメージ図の分野の区切りが「,」「・」両方あるが、統一をするかどうかの確認があり、議論の結果、まちづくり分科会と環境分科会の分野は「,」に変更することに決定した。
- ・ また、「これらのまちの姿の具体的提案は、各論に示す提言シートに盛り込まれています。」という文章について、姿勢を表現するために「これらのまちの姿の具体的提案を、各論に示す提言シートに盛り込みました。」とすることも考えられるのではないかとの提案があり、議論の結果、「これらの具体的提案は、各論に示す提言シートに盛り込みました。」に決定した。
- ・ 以上の結果、「私たちが目指すまち」については、以下のとおり確定した。

私たちが目指すまち

私たちは基本理念を実現するために、市民の生活を6つの分野に分けて、目指すまちの姿を考えました。これらの具体的提案は、各論に示す提言シートに盛り込みました。

< 3 . 基本理念の検討に当たり重視したこと >

(1) 前文

- ・ 各分科会から報告があり、以下の議論がなされた。
 - 参考資料1のとおり意見があり、検討した結果、次のとおり決定した。
 - ・ 5行目冒頭の「そのような」を「このような」に変更する。
 - ・ 9行目冒頭の「このようなこと」を「これらのことを」に変更する。
 - 「持続可能な社会の創造に向けて」の中で「自然の脅威にも向き合い」という言葉があるにもかかわらず、背景となる前文に「地球温暖化」などの言葉がないのはバランスに欠けているのではないかとの意見があった。この点に関しては、「地球温暖化」という言葉を使わなければな

らないのかどうか。また、他の並列的な文言や後段の文章との整合やバランスなどについて議論がなされた。議論の結果、この文案はすでに分科会でも説明しているため、文脈まで変えるべきではないとの考えのもと、次のとおり決定した。

- ・ 2行目「テロや金融危機など国際情勢の混迷に加え、国内では経済成長の停滞、労働環境の悪化、将来への漠然とした不安……。人々のつながり」を「地球温暖化の進行や、テロ・金融危機など国際情勢の混迷に加え、国内では経済成長の停滞、労働環境の悪化、将来への漠然とした不安……。また、人々のつながり」に修正する。

読んだ印象として、マイナス要素だけではなく、もっと将来に希望がもてるような表現にした方が良いのではないかという意見があった。

- ・ 事務局から、1行目の「2002年」を「平成15(2003)年に、3行目の「拡がり」を「広がり」に、また、タイトルの「あたり」を「当たり」にそれぞれ変更した旨の報告がなされ、確認した。
- ・ 以上の結果、「基本理念の検討に当たり重視したこと：前文」については、以下のとおり確定した。

基本理念の検討に当たり重視したこと

平成15(2003)年のゆめおりプラン施行から、もうすぐ10年が経ちます。この間、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。地球温暖化の進行や、テロ・金融危機など国際情勢の混迷に加え、国内では経済成長の停滞、労働環境の悪化、将来への漠然とした不安……。また、人々のつながりは薄れ、コミュニティの崩壊が広がり、「格差社会」「無縁社会」などという寂しい言葉も生まれました。

このような状況の中、次の10年の基本構想・基本計画の素案を検討する市民会議は始まりました。そして、会議が動き出して間もなかった3月11日、東日本大震災が発生し、それに続く福島第一原子力発電所の事故や計画停電。当たり前だった日常は大きく揺らぎ、人々にとって価値観や人生観を真剣に問い直す契機となりました。

これらのことを踏まえて、基本理念の検討に当たっては以下のことを重視しました。

(2) 幸せを実感できるまちを目指して

- ・ 各分科会から報告があり、以下の議論がされた。

前半の文章が「思います。」「考えました。」と曖昧な止め方で終わるので、1段落目の「異なると思います。」は「異なります。」で良いのではないかとの意見が出された。この点に関しては、原文どおり「異なると思います。」に決定した。

1行目の「震災を経験し、」について、震災を経験したことだけではないとの意見が出された。この点に関しては、「私たちは今回の震災を契機にして」を「私たちは今回の震災をひとつの契機として」に変更することを決定した。

2行目の「幸せのかたち」に「 」を付けるべきではないかという意見が出された。この点に関しては、原文どおり「 」は付けないことを決定した。

2行目の「問いなおす」はひらがなのかとの意見が出された。この点に関しては、漢字にして「問い直す」に変更することを決定した。なお、このことに連動して、前文についても「問いなおす」は「問い直す」に変更することを決定した。

表題の「重視したこと」と文末の「...目指します。」という表現は、主語が分からなくなるため不明瞭になるのではないかという意見が出された。この点に関しては、「目指します。」

を「目指すこととしました。」に変更することを決定した。

- ・ 以上の結果、「基本理念の検討に当たり重視したこと：幸せを実感できるまちを目指して」については、以下のとおり確定した。

幸せを実感できるまちを目指して

「幸せ」の感じ方は人それぞれ異なると思います。けれども、私たちは今回の震災をひとつの契機として、幸せのかたちを問い直すことが必要と考えました。

家族や地域が支え合い信頼の絆で結ばれ、多様な生き方が選択でき、生きがいのもてる仕事をし、安心して暮らしていくことで、誰もが幸せを感じるまちを目指すこととしました。

(3) 新たな協働に向けて

- ・ 各分科会から報告があり、以下の議論がなされた。

参考資料1のとおり意見があった。この点に関しては、どの漢字にするのか、あるいはひらがなにするのかの議論を踏まえて、4行目の「気持ち」を「思い」に変更することを決定した。

2行目「市民や市民団体」について、みんなで担う公共と協働分科会では「市民や市民活動団体」に統一している。総論でも統一してはどうかとの意見が出された。この点に関しては、「活動」を入れることによる意味の違いについて議論があり、また、「市民や市民団体」には「町会・自治会」が入らないため別途入れた方が良いとの意見が出され、「市民や市民団体」を「市民や町会・自治会、市民活動団体」に変更することを決定した。

表題の「重視したこと」と文末の「...提案します。」という表現は、主語が分からなくなるため不明瞭になるのではないかという意見があった。この点に関しては、「提案します。」を「描きました。」に変更することを決定した。

- ・ 事務局から、2段落目1行目「そして学んだ成果を住民自治を進めていくうえで、」が「を」が続いて分かりづらいため、「住民自治を進めていくために、」をその文の冒頭に置いてはどうかとの提案がなされた。この点についてはそのとおり決定した。
- ・ 事務局から、「社会を作る」はこの漢字にするのか確認がなされ、ひらがなで「つくる」に修正することに決定した。また、統一ルールにより、2、3行目の「 」が外され「・」で並列に変更した旨の報告がなされ、2、3行目については「・」を「、」とし、その他は修正のとおり確認した。
- ・ 以上の結果、「基本理念の検討に当たり重視したこと：新たな協働に向けて」については、以下のとおり確定した。

新たな協働に向けて

私たちが信頼の絆でつながり支え合う社会を実現するためには、行政だけに依存するのではなく、私たち市民も当事者として協働の場に参加することが望まれます。市民や町会・自治会、市民活動団体、企業、大学、行政などがそれぞれの役割をもって、自分たちこそ社会をつくる主体であるという思いと責任をもち協働することが大切と考えました。

住民自治を進めていくために、まちづくりの主役である市民一人ひとりが、夢をもって学び、そして学んだ成果を次世代育成支援や地域福祉などの課題解決に活かしていく市民像を描きました。

(4) 持続可能な社会の創造に向けて

- 各分科会から報告があり、以下の議論がなされた。

参考資料1のとおり意見があった。この点に関しては、「創ること」は「つくること」に変更することに決定した。

表題の「重視したこと」と文末の「...提案します。」という表現は、主語が分からなくなるため不明瞭になるのではないかという意見があった。この点に関しては、「目指します。」を「目指すこととしました。」に変更することを決定した。

- 以上の結果、「基本理念の検討に当たり重視したこと：持続可能な社会の創造に向けて」については、以下のとおり確定した。

持続可能な社会の創造に向けて

私たちは、八王子の豊かな美しい自然を享受しながら、自然の脅威にも向き合い、人と自然が共生する持続可能な社会をつくるのが大切と考えました。

限りある資源の有効活用、農産物やエネルギーの地産地消、自然を活かした観光の振興、付加価値の高い産業の創出、災害に強いまちづくりなど、人々が安心して暮らせる持続可能な社会を目指すこととしました。

4. 全体構成の確認

- 事務局から、各論の内容については分科会において作成することとなっているため、参考に配付したものであること、シートも含めて今後の誤字脱字を含めた最終調整は今後事務局で行っていくこと、また、素案の内容についてはホームページに11月18日以降に掲載する予定であることが報告され、確認した。
- 表題について、「八王子ゆめおりプラン」の名称が浸透していることから、今回も継続して「ゆめおりプラン」と記載できないかとの提案がなされ、事務局から、以下の点が報告された。
 - 前回の素案における「ゆめおり」は「八王子ゆめおり市民会議」という市民会議の名称であること
 - 「八王子ゆめおりプラン」はあくまでも素案ではなく現行の基本構想・基本計画の名称であり、新基本構想・基本計画の名称がどのようになるのかは現段階では分からないこと
- 会議名について「八王子ゆめおり市民会議」にはできないのかとの提案がなされ、事務局から、会議の名称としては、市民会議の総意より、あるいは分科会の議論を踏まえて起草委員会により決定する、いずれの場合でも、素案冊子への掲載は印刷の関係から現段階では難しい。ただし、素案の印刷には間に合わないが、12月3日の全体会議で会議の名称を決定することは可能である旨の報告がなされた。
- 資料2「【各論】各分科会の冒頭2頁及び施策提言シート一覧」について、それぞれ分科会からの簡単なコメントをもとに内容確認を行った。また、事務局から、「総論」「各論」は見開きではなく、裏表になる旨の説明あり、委員から、「見開き」が望ましいという意見が出されたことから、「中扉」については色紙ではなく白紙とし、「総論」「各論」ともに「見開き」にすることに決定した。

5.【参考】原稿の確定

- ・ 事務局から、以下の点について報告がなされ、確認した。
 - 資料4「「中間のまとめ」に寄せられた市民意見に対する検討結果一覧」について、分科会からの修正提案を反映していること。また今後、用語統一等の修正は事務局が責任をもって行うこと
 - 資料5「市民会議委員名簿」について、前回の起草委員会における指摘事項を反映していること。また、掲載している委員名は、掲載を希望しない1名を除き183名であること
 - 市民会議の経緯については会議等の活動延べ回数が確定していないことからここでは示していないが、今後担当委員と事務局で最終的に調整していくこと

6.「あとがき」原稿の確定

- ・ 野牧委員から、冒頭文について8行でまとめたこと、また概要について説明がなされ、確定した。
- ・ 次の市民会議へつなぐために の文章について、参考資料2を含めて、岡崎委員から説明があり、以下のような議論がなされた。

事務局から、基本計画は事業を掲載するものではなく、施策及びその方向性付けをするものであるため、素案の原案への反映として市民委員会に議論していただく対象は、素案で提案される施策レベルであり、事業レベルの判断ではない。基本計画で位置付けられた方向性に基づき、素案で提案された事業を計画化していくかどうかは、個別計画等である。そのため、参考資料2の現状に書かれている内容については、事実と合う形で一考願いたいとの提案があった。この点に関しては、市民委員会が事業の議論をするとの認識をもっているわけではないことから、現状に即した内容に修正することを確認した。

一方で、委員から市民会議としては、具体的提案事項について多くの時間を割いてきたことから、それらについてもどのように扱われていくのかを見守っていきたいという思いがあって提案しているとの発言があった。この点に関しては、事務局から具体的提案として記述してもらうことは全く問題ない。現状部分の指摘は、あくまでも市民委員会の役割に関する事実を正確に記述してもらいたいという指摘である旨の回答がなされた。

事務局から、具体的提案に書かれている内容と担い手が市になっていることが正しいのかどうか確認がなされた。この点に関しては、検証委員会の設置主体は市であるためとの考えであったが、関わるのは当然市民であることから、そのように変更することを確認した。

5行目「素案がどのように」は「今回の素案がどのように」にした方が、前回の素案との明確な切り分けになるのではないかと提案がなされた。この点に関してはそのように変更することを確認した。

委員から、内容について当初の趣旨に近くなったとの意見が出された。

【1-14】の施策提言シートは内容については異論がないことから、文言修正等についてはみんなで担う公共と協働分科会と分科会事務局に一任することを確認し、その他については内容を確定した。

(リーダー会議)

7.全体会議の運営について

- ・ 事務局から以下の点について報告等がなされた。

12月3日の全体会議の運営についてはリーダー会議で行ってもらうことが前回決定された点
全体会議後の報告会において、リーダーから市長に各5分程度で概要を説明してもらいたいと
考えている。その内容については、時間が限られていることから、各論の「趣旨」「解決すべき
課題」から抜粋して説明してはどうか。また、各論の要約版を広報原稿として編集する予定で
あるため、そちらを参考にさせていただいても良いのではないかと。

できれば、当日の説明概要を事務局に送付してもらいたい点

広報原稿は、11月20、26、27日の分科会でお示ししたいと考えている点

- ・ 委員から、全体会議の進行について、傍聴者も想定されることから、経緯・決定プロセスが分かるように説明する必要があるのではないかと意見が出された。

8. その他

<会議の名称について>

- ・ 委員から、会議の名称については印刷物には反映されなくても、あった方が良く考えるため、全体会議で決定した方が良くはないかと意見が出された。
- ・ 前回からの継続、また次へのことを考えると、「八王子ゆめおり市民会議 2011」としてはどうかとの提案がなされ、通称名であれば良くはないかと意見により、通称を「八王子ゆめおり市民会議 2011」とすることを確認した。
- ・ 事務局から、印刷には間に合わないが、11月20、26、27日の分科会でその名称について12月3日の全体会議で決定したい旨の報告をしておいてもらえればスムーズではないかと提案がなされた。

<11月20、26、27日の分科会での報告事項>

- ・ 以下、5点の報告を行うことを決定した。

総論結果報告

シート【1-14】の報告

あとがき《次の市民会議へつなぐために》の報告

通称名の決定に向けた報告

広報原稿の報告

以上